

菅内閣総理大臣所信表明演説について

2020年10月26日
電気事業連合会
会長 池辺和弘

本日、菅内閣総理大臣が所信表明演説において、グリーン社会の実現に最大限注力し、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを表明された。

私どもとしては、極めてチャレンジングな目標と受け止めており、目標達成には、再生可能エネルギーや原子力発電の活用といった従来の取り組みに加え、抜本的な革新的技術を生み出すイノベーションが重要であると考えている。

イノベーションの実現には多くの課題が存在するが、国としてもそれらの検討を加速するものと認識しており、私どもとしても、しっかり対応する必要がある。

また、今回の目標を踏まえ、今後、国において、具体的な政策の策定に向けた検討が行われるものと認識しているが、エネルギー政策は、国民生活や経済活動の基盤を支える国の根幹をなす政策であり、「安全性 (Safety)」の確保を大前提に、「エネルギーの安定供給 (Energy Security)」「経済効率性 (Economic Efficiency)」「環境への適合 (Environment)」の同時達成を目指す「S+3E」を踏まえた政策の立案をお願いしたい。私どもも、地球温暖化対策と、電力産業の進化・発展が両立できるよう、主体的・総合的に取り組んでまいりたい。

以上